



國家圖書館編

東亞同文書院 中國調查手稿叢刊

109

國家圖書館出版社



国家出版基金项目
NATIONAL PUBLICATION FOUNDATION

國家圖書館編

東亞同文書院
中國調查手稿叢刊

109

國家圖書館出版社

第一〇九冊目錄

昭和三年（一九二八）調查報告（第二十五期生）

交趾支那重要物產調查

交趾支那重要物產調查

交趾支那貿易調查

交趾支那貿易調查

交趾支那ニ於ケル華僑

交趾支那の華僑

比律賓政治事情

菲律賓政治情況

河島次馬

第十四卷第一編

..... 一

村上秋夫

第十四卷第二編

..... 八三

安河内哲夫

第十四卷第三編

..... 一八一

田中香苗

第十五卷第一編

..... 二四三

交通機關（陸上）調査

交通機構（陸上）調査

マニラ煙草

馬尼拉煙草

比律賓ノ外國貿易

菲律賓的外國貿易

金澤伍一

第十五卷第二編……………三四三

芥川正夫

第十五卷第三編……………四五三

小坪昇三

第十五卷第四編……………五三一

昭和三年度

交趾支那重要物産調査

第二十五期生

河島次馬

第拾四卷

夾趾支那經濟調查班

第一編 交趾支那重要物產調查

東亞支那重要物産日就

第一編 西貢米

第一章 概論 印度支那の米と西貢米の地位

一、耕地面積と産額

米産國々、印度支那に於ては其の産額は國內消費高を遙かに超過し従て

之と輸出し得る數量夥しく米穀は實に印度支那最大の輸出品である然も其の

生産高の耕地面積に對し然る日本夫に比し遜色あり其の生産方法及び各種機関の

不備なるに不拘既に其の産額見。べしものあり實に交趾支那は米であつたと見え

跡せられてゐる。況んや此に對する各方面の設備の完備せる暇に於ておやである。

今、佛領印度支那に於ける各州の收穫高並に輸出可能の上の觀察する時は

交趾支那の地位に依り東京東埔案此に比し、ラオスに至るとはあふ不足

今、四州の米の耕作面積及び其の收穫高とを示せば次の如し（2、3、4、13）

一、耕地面積（單位佛町歩）

總面積

耕地面積(一九一三)

耕作面積(一九二二)

交趾支那

五、六〇〇、〇〇〇、

一五〇四、〇〇〇、

一八〇四、〇〇〇、

東京

一、一五〇、〇〇〇、

一期作 四七五、〇〇〇、
二期作 六七五、〇〇〇、

四五九、〇〇〇、
七七〇、〇〇〇、

柬埔寨

一七、五〇〇、〇〇〇、

五五〇、〇〇〇、

五五六、〇〇〇、

安南

一五、〇〇〇、〇〇〇、

四六七、〇〇〇、

九四二、〇〇〇、

二. 收穫高(單位佛呎)

(一九一三)

(一九二二)

一九二二

交趾支那

一九九三、〇〇〇

二二〇八、〇〇〇

一九九〇、〇〇〇

東京

一八二五、〇〇〇

一六六八、〇〇〇

一八一六、〇〇〇、

柬埔寨

七三五、〇〇〇

五二五、〇〇〇

六五一、〇〇〇、

安南

一、一六四、〇〇〇、

九五四、〇〇〇、

次に印度支那重要度量衡に就き予め述べる。

コン

(Cang)

我が

約三〇〇歩

キログラム(Kilogramme)

二六六分系

ジヤア (Gia)

此方依り定せざるも定規準は四〇五即ち二二斗

エクトール (hectare)

俾四歩にして日本の約一町歩

マオ (mao)

我が五段 三九畝

ピクル (picul)

俾担にして 一〇六觔 十六貫一〇六匁

サオ (sao)

我 十六歩 一八六畝

タン (tang)

一坪六分畝

トン (Tonne)

俾噸にして千觔 一 二六六匁〇四貫

ヴオン (Vuong)

我 二斗二合畝

第二章 交趾支那の土壤及び氣候

交趾支那の土壤は大部分粘土質下層土の上に堆積せる砂土より成り、土質は極めて肥沃であるが、其の肥沃なる所以は本流より大小諸川の河川溝渠と爲て分派する、二大河流即メコン河トナイ河の年々運出する沖積土に原因するものである。

も別として、斯る土地は数回の耕作後には必ず土地荒瘠するといふ、然し幸れ
 交趾より水田は大部分より土質は腐し、厚い、故に水田適地と称するを得、
 今、交趾より土壌見本より分析表を掲ぐ但し第一表及び第二表はモルン
 氏（
 への分析成績に係る、

第一表 (1) 交趾より土壌相成分表、

(化学分析表)

甲 (1) 乾土 乙 (2) 湿土

甲 (3) 乾土

湿土 (4)

相成分	分量	相成分	分量	相成分	分量	相成分	分量
砂礫	1	砂礫土	1	窒素	0.25%	0.12%	0.12%
石灰	1	石灰土	1	磷酸	0.03%	0.015%	0.015%
粘土	5.3	粘土	7.5	石灰	0.54%	0.04%	0.04%
砂礫土	4.5	砂礫土	1	石灰	0.47%	0.04%	0.04%
布礫礫	2.3	布礫礫	1.5	石灰	0.47%	0.04%	0.04%
腐土	0.9	腐土	1.5	常建	0.03%	0.03%	0.03%

水	一〇〇ノ水分		五八二		一〇〇ノ							

亦三、四表の示す如く依れば、交趾支那の米田地は窒素、磷酸、並にホタツシ上に富む。換言すれば、該地は未だ未だ地の状態に於て然と然と外なる肥沃度を有し、他日之を開墾する時、其の爲むべき肥料を要する事は明なり。

高燥地に於ける耕作は低湿地に比し更に勞作を要するものもある。入米する地は雜草繁茂し、且つ、一旦平野を發見するも其又除し盡すは容易の事あり。平素は、竹、籐、稲の發育中、數回刈り取らる。此を拔き去るれば、苗の發育に有害なるものとなり、遂に枯死するに至らしめる。爰に、然るに又、其の地の泥土を毎月のかく、押流し、ある所、其の地は常に其の浸潤に於ける。而して、雨期に入りて是れ等の場合を流出減少せしむるに及ばば、到底米田として使用するに便ない。

三 交趾支那の氣候と気温

交趾支那の氣候は暑熱にして湿氣多し地形平盤なるを以て各地の天は大体凡そ一であらふ其の氣温差は頗る低し屋敷に於て是の據氏十八度は乃至三十五度にして平均十七度いふ。

一年を明かに二季節に分つことを得、即ち北東の季節凡そ吹し、十月末に概ありて翌年五月初めに至る乾燥期と

西南の季節凡そ吹し四月、五月、六月は人休

に健康上最も有害な限なる。雨期である。

本地の土地肥沃なるは土壤内層腐植物の豊富なる因のみならず其の解けしこ且雨期時の腐土堆積と前記雨期六ヶ月に亘る、湿度、潤沢なる雨量とに依る土壤の化物の日毎の更替に是れも因なり。而る氣温の未作と良好なるも其の因するは今條で今般の農民の調査に依る十月と十一月の間の氣水田、及び土壤の温度表を掲ぐ。

交趾支那十一月氣温表(據氏)

時刻	十月								十一月								十二月																																
気温	二五・一	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	水田の 水温	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	地温	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	気温	二五・一	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	水田の 水温	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	地温	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一
水田の 水温	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二四・五	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二四・五	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二四・五	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二四・五	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二四・五	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一		
地温	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二四・五	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二四・五	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二四・五	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二四・五	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二四・五	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一		
気温	二五・一	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二四・五	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二四・五	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二四・五	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二四・五	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一		
水田の 水温	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二四・五	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二四・五	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二四・五	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二四・五	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二四・五	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一		
地温	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二四・五	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二四・五	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二四・五	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二四・五	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二四・五	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一		
気温	二五・一	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二四・五	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二四・五	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二四・五	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二四・五	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一		
水田の 水温	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二四・五	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二四・五	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二四・五	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二四・五	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二四・五	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一		
地温	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二四・五	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二四・五	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二四・五	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二四・五	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一	二四・五	二六・一	二七・五	二八・一	二八・五	二九・五	二六・一	二五・一		

交趾支那十二ヶ月気温水温平均表 (攝氏)

西貢に於ける (Saigon)

月次	最高	最低
一月	三一、二九	二二、一
二月	三三、一五	二二、〇四
三月	三四、六一	二三、七二
四月	三六、八三	二三、七〇
五月	三四、二九	二五、八三
六月	三二、一六	二五、方二
七月	三一、〇〇	二四、二八
八月	三一、七九	二四、四七
九月	三〇、九〇	二四、一三
十月	三〇、五七	二三、八一
十一月	三〇、六四	二三、〇〇
十二月	三一、〇八	二三、八七

三、交趾支那の湿度と雨量、

米の收穫に生ずるものは湿度の外に湿度も必要とするに有足するまい、

大抵是なる湿度をれば其大に稲の榮る良なりして、其の放るも亦安全なるのみ

なり、茲に茲に於ける米實も又良好である、此の其の故は交趾支那は世界

に於ける米産地として尤も相違の國の一である、

交趾支那は其の気温より論ずるも果大に其の湿度よりするも實際米作には特に相違

の氣象を有す即ち、気温は一年を通じて、摄氏二十一度乃至三十五度を上下し、

湿度は六十度乃至九十度を往來するを常則として其の收穫期中は最も平均

七十五度である、加之日掃るその氣候も又規則正しく月毎に雨なる即ち乾燥期と雨期

とが相違し、其の又毎月規則正しく雨期と見ゆる雨量も又夥しい、

第三章 稲作と收穫、

一、耕作用農具、水田の形状その耕作の順序は大體に於て日本と合符なり、

依つて相異する處を説明せん、